

会 議 録 概 要

会 議 の 名 称	令和6年度第1回ひろさき教育創生市民会議
開 催 年 月 日	令和6年7月22日（月）
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後2時00分 から 午後4時40分 まで
開 催 場 所	岩木庁舎2階 多目的ホール（弘前市大字賀田一丁目1番地1）
座 長 の 氏 名	国立大学法人弘前大学 教育学部 教授 福島 裕敏
出 席 者	座長 福島 裕敏 委員 相馬 隆子 委員 佐藤 滋子 委員 奥野 武志 委員 矢田 公夫 委員 猪股 豊 委員 鎌田 猛 委員 佐藤 信隆 委員 花田 流久 委員 木村 憲夫 委員 椀澤 睦子 委員 佐藤 智絵 委員 鈴木 勝久 委員 高野 光 委員 清宮 絵里子 委員 佐藤 忠全 委員 黒木 和実 オブザーバー 瀬川 直樹 委員 岡田 敦史 委員 山本 勝規
欠 席 者	委員 萩臺 美紀 委員 尾形 公一 委員 佐藤 義光 委員 古川 浩樹 委員 佐藤 誠 委員 藤田 俊彦 委員 福島 龍之 委員 福井 深雪 委員 佐藤 優輝
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	教 育 長 吉田 健 生涯学習課長 原 直美 教育総務課長 高谷 由美子 博物館長兼高岡の森弘前藩歴史館長 熊谷 義昭 学務健康課長 相馬 隆範 中央公民館長 中川 元伸 学校整備課長 高山 知己 文化財課埋蔵文化財係長 蔦川 貴祥 教育センター所長補佐 佐藤 久美子
会 議 の 議 題	小・中学校の防災機能について
会 議 資 料 の 名 称	資料①「市立小・中学校の防災機能について」 資料②「避難所一覧」
会 議 内 容 (発言者、発言内容、 審議経過、結論等)	1 開会 2 教育長挨拶 3 議事 4 閉会 【内 容】(概要) 1 開会 (新任委員4名を紹介)

3 議事

「小・中学校の防災機能について」

学校に求める防災機能として、新規、既存のものを問わず整備が必要な施設・設備について各グループで討議し、発表する

(事務局説明)

説明者：学校整備課長

資料①「市立小・中学校の防災機能について」

資料②「避難所一覧」

○グループ討議

座長よりグループ討議の進行手順について説明

【グループ討議前の主な質疑は以下のとおり】

- ・討議の論点は、発災直後からの時間的な段階や児童・生徒、地域住民など、どのような視点で議論すべきか。

⇒（座長）災害時は様々な状況や、様々な立場の避難者が想定されるため、限定せずに多様な視点でご意見を頂戴したい。

- ・学校と担当部局での役割分担を教えてください。
- ・休日あるいは夜間の先生がいない時に災害が起きた場合の対応手順はどうなるのか教えてください。
- ・避難所として開設された場合、普通の運用は学校の先生なのか、それとも担当部局の誰かなのかを教えてください。

⇒（学校整備課長）教育委員会では学校整備課が学校施設の整備を行っている。災害時の役割分担としては学校の先生では無く、市役所の職員が避難所の運営を行う。夜間・休日等に災害が発生し、市で学校を避難所として開設する事を決定した際には、まず防災課から学校整備課へ連絡がある。その後警備会社に連絡し、学校の開錠をする。その後市役所職員が物資等を搬入し、避難所運営を行う。

○各グループからの報告

(Aグループ)

- ・ストレスの緩和が話題となった。先日の能登半島地震では、温かいご飯の提供が非常に喜ばれたと炊き出しを行った団体等から伺った。そのために調理器具を充実してほしい。カセットコンロがあれば、調理の他に煮沸消毒や何かを温めることでも活用できる。
- ・明星幼稚園の事例として、民間で協力して避難するという話があった。避難経路に不安があるため、近隣のパークホテルさんに協力を頂いて避難できる体制にしているそうだ。市と民間企業等の間ではどのような協力体制があるかもっと知りたい。

(Bグループ)

- ・資料を見て、水害時の避難に対応していない学校が多いが、何かあったら学校へ行くという認識をしている地域住民は多いのではないかと考えた。高齢者を伴っての避難や経路に不安がある場合は、やはり近場の学校へ逃げたいという住民の気持ちはあるのではないかと。
- ・暖かいご飯を食べられる設備や、清潔な状態を維持できるトイレ、防寒のための毛布や、ティッシュや水と電源がしっかりと確保されていることが求められる。
- ・多様性、性別への配慮としてプライバシー空間の区分け等が必要である。また、対応する職員についても、男女両方いる事で避難者は相談しやすいと考える。
- ・連絡手段の確保として、携帯の充電が出来る環境であってほしい。
- ・コロナなどの感染症への対応も話題となった。
- ・福祉的支援を必要とする方への配慮、体制づくりが必要だ。福祉避難所というものがある事を今回知り、情報発信を広く行って欲しいと考えた。

(Cグループ)

- ・スロープの設置などのハード面、備蓄品などの内容、子どもからお年寄りまでの様々な対応が話題となった。
- ・そもそも近隣の避難所を知らないなど、災害への意識があまり高くない方が多いのも課題であると考え。小・中学校の子ども達はもとより、地域の方々、保護者等への一層の啓発が大事である。
- ・市職員が避難所運営を行うと説明があったが、令和4年度の大雨の時には、市職員が到着するまでは、学校側で対応を行った。市職員がどのタイミングで到着するのか、避難者名簿の作成をどうするかなど、連絡体制や役割分担をどうしていくのか考える必要がある。
しかし、分担とはいえ、学校の方でも出来ることは対応していく必要があるということで、学校・教員としても受け入れ体制は日頃から心がけていく必要がある。

【発表で出た意見や質問への回答など】

事務局回答

⇒（民間との連携・協力について）全てを把握している訳ではないが、例えば、民間企業所有の建設機械等の優先使用や、灯油等の物資の提供について協定を締結している。周知状況としては、市のホームページに掲載しているのでご覧いただきたい。

⇒（水害時に避難できない学校について）避難所を指定するのは教育委員会ではないが、浸水想定区域内の建物は避難所出来ない規定があるようだ。教育委員会としても近所の学校に避難したいという地域住民の声はこれまでも把握しているので、出来るところは協議を続けて

いきたい。

⇒（災害時の役割分担について）市の防災計画に職員配置等は定められている。以前は避難所の運営は福祉部の担当であったが、近年は教育委員会等も含む市全体で職員の配置が決められている。名簿の書式等も防災計画資料編に掲載されているので市ホームページでご覧いただきたい。

⇒（福祉避難所について）福祉避難所は、老人福祉施設等が該当になっており、必要と判断されれば開設されて対象者を受け入れることとなるようだ。開設の流れ等の詳細は市ホームページで公開しているのでご覧いただきたい。

【その他質疑】

・第二中学校区に住んでいるが、ハザードマップでは第二中学校は水害時には避難出来ないこととなっている。緊急時に助けを求めてきた人に、学校長は避難所ではないから受け入れませんと人道上言えないと思う。そうなった時に避難者の面倒は学校が見るのか、避難所ではないから市は関知しないこととするのか。現場は混乱すると思うが、どう考えているのか。

⇒仰るとおり、人道的な配慮は必要かと思う。しかし、市全体としてどのように対応していくかを、この場で即答できないことをご理解いただきたい。頂いた意見は、関係者に伝えていきたい。

（座長まとめ）

- ・【その他質疑】の内容は、小・中学校の防災機能をこの会議で議論した際に出た意見なので、市の防災課等に伝えて議論をしていただきたい。
- ・学校は多くの近隣住民には馴染みのある公的機関であり、住民が安心・安全と第一義的に考える場所だからこそ期待が高い。
- ・水害時に孤立する可能性から避難所に出来ない学校があると思われるが、地域の実情を考えると、どの位の浸水が想定され、その中で孤立状態がどれくらい続くのかという点で検討することも必要だと考える。民間を含め高い建物は少なく、災害初期としては逃げられる所に逃げるのが大事なのではないか。
- ・有事の役割分担は事前に想定されるべきであり、段階的に移行されるべきではあるが、そこにいる人で出来ることから行動することが必要な場面はある。グループ討議中に、過去の震災では中学生も避難所の担い手になっていたことが話題にあった。その点を考えれば、普段から学校にいる生徒が備蓄品の配置状況等を把握出来ていれば避難所開設が少しでも早くなるので、学んでおくことが大事である。
- ・最終的には分担がなされるべきだが、初期的には逃げられる所に逃げて、出来る人が行動することが一番大事なので、災害時に想定される

事柄は周知が必要である。

- ・東京都国分寺市では、関東大震災等を想定した備えは進んでおり、地域の人々は避難について意識している。南海トラフ地震の影響が想定される場所では、どこに高いところがあって、どこに逃げるのか具体的なシミュレートがされている。やはりその土地の実情を踏まえて具体的に考えるべきである。
- ・弘前市は東日本大震災では電気・水道は止まったものの、直接的な被害はあまり無かったと思うが、弘前市史を見れば1766年には内陸型の地震による被害があり、岩木山や八甲田山の噴火リスクはある。
- ・特に最近の暑さ自体がほとんど災害級なので、学校としても、避難所としても体育館等の冷・暖房施設は大事である。
- ・災害の問題は、時間が経てば忘れてたり、普段からリアリティをもって考えることが少なかったりするが、普段からの啓発や市民それぞれが自分ごととして考える事が必要であるので、ぜひ継続してまた機会を作っていければと考える。本日は委員の皆様から貴重なご意見を頂いたことに感謝申し上げます。

4 閉会